

【南九州地区納税貯蓄組合会会長賞】

幸福度

南さつま市立大笠中学校

一年 渡瀬 優花

七万五千五百円。私が、水泳のレースに出場するために必要な水着の値段だ。正確に言うと、水着の値段は六万五千円で、六千五百円が消費税ということになる。私たちは、買い物をする時に誰でも消費税を払っている。普段の買い物では、十パーセントの消費税をあまり意識することはないが、高額な買い物をする時、一つの買い物に多くの消費税を払っていることを実感する。税金については、小学生の時に社会で学習したので、私たちの生活を平等に豊かにするために使うことに使われていることはよく知っている。給食費が無料で食べられるのも、病院代が戻ってくるのも税金のおかげで、私たちは税金のおかげで安心して生活することができる。それは知っているが、やはり、十パーセントというのは大きな出費な気がする。水着の画面を見ながら、ぶつぶつと文句を言っていると、私に母が、

「でも、日本は消費税が低いほうだって言うよね。もつと税率が高い国もあるって。」と言った。「え。これ以上消費税を払う国ってどこなのだろう。そして、その消費税は何に使われているのだろう。」と思った私は、世界の消費税について調べてみることにした。

調べてみると、ヨーロッパの国々が消費税率が高いことが分かった。ハンガリーは二十七パーセントで、スウェーデン、デンマーク、ノルウェーなどが二十五パーセントだ。ということは、私の水着をノルウェーで買うと八万二千二百五十円になる。驚きの金額だ。こんなに高い消費税を払っているヨーロッパの人々に不満はないのだろうか。さらに調べてみると、デンマークやノルウェーは「世界の幸福度ランキング」でも、日本より上位にすることが分かった。多くの税金を払うのに、幸福度が高いということは、税の使われ方に工夫があるということだ。例えば、スウェーデンは、教育費が大学まで無料で、二十歳未満と八十五歳以上は医療費が無料だ。また、ノルウェーも、教育費が原則無料で、妊娠から出産までの医療費が無料となっている。消費税が高い国の共通点は、教育費や医療費といった社会保障が充実しているということだ。その国に住む人が、平等に医療や教育を受けられるという点では、必要な税だということが分かった。

日本の消費税も、医療や教育、介護、年金など社会保障に使われている。どんな人も、安心して生活していくために、社会保障を充実させることは大切なので、やはり消費税は暮らしを支える大切な税なのだ。全ての人が安心して暮らせる日本を作るための税金の使い方を考え、社会保障の充実をさらに進めていけば、日本の幸福度もヨーロッパの国々のように上がっていくのではないか。未来の日本は消費税が上がるがあっても、それに合わせて幸福度が高くなっていく国であってほしい。